

第26回ボトムプラウ 有機物循環農法 体験記授賞式

▶2016年12月5、6日
(茨城県土浦市)



授賞式の審査員を務めた齊藤義崇氏

全国から約80名の農業経営者らが参集し、第26回有機物循環農法体験記授賞式が2016年12月5～6日に茨城県土浦市で開催された。

スガノ農機(株)代表取締役の菅野充八氏の挨拶により開会した。授賞式に先立ち登壇したのは元ローソン・ジャパンの社長で全日本農商工連携推進協議会会長の都築富士男氏だ。「先行事例に学ぶこれからの農業経営」と題する講演のなかで、企業経営で経験した知見をもとに農業・農村の現状とマーケティングの視点から捉えた商品開発の話題、農業と他産業との連携について触れた後、リーダーとしての経営者の役割について述べた。

優秀賞は1名、計8名が表彰

有機物循環農法体験記の表彰は、審査委員長を長らく務めた村井信仁氏の勇退により今年から審査体制が一新した。今回の応募状況について、前回より審査に加わっている齊藤義崇氏と今回から新たに審査に加わった農研機構九州沖縄農業研究センターの主任研究員である中野恵子氏がそれぞれ総評を述べた。

今回の受賞者は優秀賞が1名、秀逸賞7名と合わせて、合計8名である。北海道、東北、関東、東海、四国地方の若手から熟練の経営者が表彰された。若くして家業の存亡に悩まされ農業を職業に選んだり、農業以外の道に進んだものの農業で再起を誓ったりと苦悩は八人八様である。受賞後のスピーチにそのドラマが垣間見られ、来場者は聞き入った。

授賞式の後に満を持して披露されたのは、ヒューマンドキュメンタリーの最新作である。主人公は愛媛県大洲市に拠点を構える「農事組合法人たいよう農園」の代表を務める本田和也氏。ミカン農家を継いだ頃に経営者の心得を学んだことから養豚家に転身し、さらにタマネギとキャベツを中心に露地野菜の生産・加工を手がける事業を興した。地元の方を積極的に雇用し、現場を任せることによって成長の機会を与え、事業を軌



今年から新たに審査員に加わった中野恵子氏

ヒューマンドキュメンタリー講習会

道に乗せる手腕には周囲にあつと言わせる勢いがあるようだ。新作のDVDは来春に発売予定である。

翌日の「土作り勉強会」は今回から齊藤氏が講師を引き継いだ。基礎をおさらいした後、気象災害と土づくりの関係性に触れた解説が練り広げられた。

その後、全国土を考える会(染野実会長)の総会が開催された。今年度の事業報告、来年度以降の事業計画が議題に上がり、任期満了を迎えた会長改選では、富山県黒部市の前田喜芳氏が新会長に選出された。

早めの昼食をとった参加者一行はバスにて柏染谷農場の圃場へ移動した。関東のからっ風が吹きすさぶなか、プラウ講習会が開催された。プラウの使い方に関する情報交換の場となった様子だった。



最新作のヒューマンドキュメンタリーの主人公、たいよう農園・代表の本田和也氏(右)と現場を任されている井上翔一郎氏(左)



秀逸賞
加藤 誠氏 (愛知県愛西市)
 ショウ
「陸」
 高いところへ上がる
 上へ進む
 主要作物：ダイコン、ニンジン、
 スイートコーン、
 オクラ
 総耕作面積：5ha



秀逸賞
徳永 大宣氏 (愛媛県西条市)
 セイ
「殊」
 ずんずんと進むさま
 主要作物：水稲、飼料米、麦、
 タマネギ
 総耕作面積：26ha



優秀賞
山本 一郎氏 (北海道美幌町)
 ティ
「胎」
 真っ直ぐに見る
 見すえる
 直視する
 主要作物：タマネギ、小麦
 総耕作面積：29ha



秀逸賞
佐々木 正氏 (岩手県平泉町)
 イ
「燐」
 まるい輪を描いて広がる光
 主要作物：小麦、大豆、飼料米、
 枝豆、ネギ、牧草、
 トウモロコシ
 総耕作面積：97.4ha



秀逸賞
橋本 英介氏 (千葉県柏市)
 コウ
「晴」
 白く乾いているさま
 汚れのないさま
 主要作物：水稲
 総耕作面積：110ha



秀逸賞
堀口 一平氏 (岐阜県本巣市)
 セイ
「姓」
 雲がなく
 空が澄み切り
 すがすがしいさま
 主要作物：水稲、麦
 総耕作面積：23ha



授賞式の会場の様子



秀逸賞
長谷川 新氏 (北海道当麻町)
 ジン
「韌」
 柔らかで強い
 しなやか
 主要作物：水稲、大豆
 総耕作面積：52ha



秀逸賞
杉山 良文氏 (北海道上川町)
 ユ
「掬」
 障害を取り除いて
 乗り越える
 主要作物：ソバ
 総耕作面積：67ha



ブラウ講習会で、実演圃場に視線を送る参加者ら



2日目のブラウ講習会后に撮影した集合写真。利根川河川敷の強風のおかげで晴天が広がりブラウ日和だった